

## 平成30年度香川県経営・生産対策に係る事業評価委員会 議事概要

- 1 開催日時 平成30年9月11日(火) 14:00～16:00
- 2 開催場所 香川県社会福祉総合センター 7階 第2中会議室
- 3 出席者  
(委員) 亀山宏、久保田英俊、向原佳代子、山田勇司  
(敬称略、50音順) 以上4名出席  
(事務局ほか) 豊島農政水産部次長、愛染農業生産流通課副課長、田中農業生産流通課課長補佐  
ほか各課関係者
- 4 会議の内容
  - 1) 開会
  - 2) 議題
    - 事業評価委員会設置要領について
    - 強い農業づくり交付金事業について (資料1)
    - 畜産クラスター事業について (資料2)
    - 産地パワーアップ事業について (資料3)
    - 香川県単独県費補助事業の実績等について (資料4)
  - 4) 閉会
- 5 議事の概要 次ページ参照

進行内容	事項	発言内容
開会	事務局	<p>ただ今から「平成30年度香川県経営・生産対策に係る事業評価委員会」を開会いたします。</p> <p>開会にあたりまして、豊島農政水産部次長からご挨拶を申し上げます。</p>
	農政水産部次長	<p>(次長挨拶)</p>
	事務局	<p>協議事項に入ります前に、本年度、新たに香川県生活協同組合連合会の向原委員が就任されましたことをご報告いたします。また、本日は、谷本委員がご欠席されております。委員の皆様方におかれましては、よろしく申し上げます。</p> <p>委員長につきましては、昨年度の事業評価委員会で、平成31年3月までの任期で亀山委員が、また、委員長の職務代理につきましては、久保田委員が選任されておりますので、昨年引き続きお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、亀山委員長から御挨拶をお願いしますとともに、今後の議事進行をお願いいたします。</p>
	委員長	<p>(委員長挨拶)</p> <p>では、協議事項に入ります前に、「委員会の公開について」事務局から説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>本日の委員会につきましては、傍聴を希望される方がいらっしゃいませんので、次第の5ページにあります委員会の公開に関する手続きを省略させていただきます。</p>
議題①	委員長	<p>それでは、協議事項に移りたいと思います。</p> <p>まず、「事業評価委員会設置要領について」事務局より説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>事業評価委員会における評価対象事業について、協議の時間が限られていることから、単独県費補助事業については、各事業実施要綱等の中で本委員会で評価を受けることが明記されている事業のみを対象とすることとし、来年度から適用したい。</p>
	委員長	<p>ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見等がありましたら、よろしく申し上げます。</p>

議 題 ②	委員長	意見はないようですので次に進みたいと思います。
	事務局	次に、強い農業づくり交付金の実績について、事務局より説明をお願いします。
	事務局	(資料1に基づき農業生産流通課から説明)
	委員長	ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見等がありましたら、よろしくをお願いします。
	委員	施設の利用状況はどうなっているのか。
	事務局	果樹の集出荷場については、利用率は70%を超過しており、今後も向上の見込みである。また、複数品目を組み合わせて利用することで期間を長くし、有効に利用している。また、米麦の色彩選別機についても、収穫時期は限られるが、年間を通して出荷することで長期間利用している。 ブロッコリーの集出荷場については、ピーク時には予冷施設等の能力を超えている時期があるが、一時的なものであり、倉庫を借りて対応している。
	委員	最近は気象災害が多く発生しており、災害の度に野菜の値段が上がり消費者には負担が大きい。災害に強い取組が必要ではないか。
	委員	レタス、ブロッコリーについては、気象災害の影響で成果目標が未達とのことであるが、農家の所得についてはどうなっているのか。
	事務局	気象災害の影響で、品薄で価格の高い時期には出荷できず、災害時期を逃れたものについては、荷物が集中し値崩れしてしまい、残念ながら農家所得も落ちてしまった。
	委員	坂出ではレタスが主要な品目であり、ブロッコリーはこれ以上増えても良いという考えか。育苗の問題もあり、増産に対応できるのか。
事務局	レタスも重要な品目であるが、ブロッコリーは県域全体で栽培を強化している品目である。育苗の課題については、JAと連携しながら取り組んでいく。	
議 題 ③	委員長	では、次に進みたいと思います。 「畜産クラスター事業について」事務局より説明をお願いします。
	事務局	(資料2に基づき畜産課から説明)

議 題 ④	委員	ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見、御質問等がありましたらよろしくお願ひします。
	委員	オリーブ豚などの取組で、県内消費と県外消費が同じくらいとの説明であった。地産地消の考え方もあると思うが、県内消費は伸びているのか。
	事務局	横ばいである。
	委員	規模拡大を目標とした場合、飼養頭数を増やすために北海道などから買い付けてくることも考えられるが、自家育成に重点を置いているとのことであった。この場合、すぐには数が増えないという課題があると思うが、その点を県としてフォローはしていないのか。
	事務局	今年度から、県の単独事業として、後継牛を育てるための簡単な支援、カウハッチに対する助成等が始まったところである。
	委員	県内で13のクラスター協議会があるとのことであるが、全ての協議会で事業を実施しているのか。
	事務局	今回評価の対象になっているのは施設整備事業であり、その他、機械導入の事業に取り組んでいる協議会や、整備事業を実施し、評価年を過ぎた協議会もある。13協議会全てで事業を実施している。
	委員	WCSの生産には、飼料会社に関係しているのか。飼料の生産を飼料会社に任せることにより、飼養管理に専念できるのではないか。
	事務局	飼料会社は関係していない。
	委員	事業の目標はどのように設定しているのか。
	事務局	クラスター協議会の関係者で協議し、実現可能な目標を設定している。
	委員長	では、次に進みたいと思います。 「産地パワーアップ事業について」事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料3に基づき農業生産流通課から説明)	
委員長	ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見、御質問等がありましたらよろしくお願ひします。	

委員	事業の優先枠の中に、「ICTやロボット技術等の先端技術の導入」とあるが、県内で事例はあるのか。
事務局	県内では事例はない。
委員	カンキツの品種は何か。また、ふる一つ物語の基準、糖度などの設定はどのようになっているか。
事務局	事業対象の品種は早生温州である。「ふる一つ物語」は、袋掛け栽培の果実のうち、糖度が13度以上で浮皮や傷等がなく、外観品質が優れたものとしている。事業実施によって、「ふる一つ物語」の基準を満たす果実の割合が向上した。
委員	タイベック巻き上げとはどのようなものか。
事務局	タイベックとは、土壌への降水を遮断する被覆資材で、年中敷いていると、太陽光で劣化するため、収穫後の不要な時期に株元に巻き取り、保管するものである。
委員	事業の取組により28年度の販売額が上がったが、29年度に下がったのはなぜか。
事務局	温州ミカンの特性である隔年結果の影響である。収穫量が多い表年と少ない裏年とを繰り返す性質がある。29年度は全体に裏年となり全体の販売額は下がったが、目標額は達成できている。30年度は表年の見込みである。
委員	マルチ栽培と袋掛け栽培の関係は何か。
事務局	事業では、高品質な「袋掛け栽培」の安定生産のため、「マルチ栽培」を組み合わせている。「袋掛け栽培」は、果実を被袋し、樹上で越冬させ糖度を高める技術であるが、秋雨で土壌が湿潤になると、「浮皮」が発生し、袋掛け栽培に適さない果実になる（ロス果）。「マルチ栽培」により土壌乾燥を保つことで、ロス果を減らし、袋掛け栽培に適した果実が安定生産され、販売額の増加につながる。
委員	実施一年目で既に目標値を超えている。所得が上がるなら、マルチに助成しなくても自ら取り組めることではないのか。
事務局	29年度は、大きな気象災害もなく、事業の効果が表れた。今後も安定した効果が得られ、目標達成がなされるよう指導する。

議 題 ⑤	委員	ほ場での廃棄など、商品ロスの数値は把握できないか。施設整備が食品ロスにどの程度貢献しているのか。助成の仕方が変わるのではないか。
	委員	製造業であれば、ロス計算はしっかりとされているが、農業者は商品ロスはほとんど計算できていない。計算には、細かく記帳する必要がある、今後の課題ではないか。
	委員長	それでは次に進みたいと思います。「香川県単独県費補助事業の実績等に係る評価について」事務局から説明をお願いします。
	事務局	(資料4に基づき農業生産流通課、農政課、農業経営課から説明)
	委員長	ただいまの事務局からの説明につきまして、御意見、御質問等がありましたらよろしくをお願いします。
	委員	担い手が優良な農地の借り受けができないといった話もある中で、企業参入を推進して良いのか。矛盾を感じないのか。 6次産業化については、売り上げは上がるが所得についてはあがるのか。逆に経費がかさんで農業経営に影響しているといった事例もあると聞く。 盆栽は言い値で取引され、儲かっていると聞かすが、そもそも農業といえるのか、本当に助成が必要なのか検討してほしい。
	委員	営農集団は、人格がなく、補助金の経理や利益の配分が難しいのではないか。集団を対象にする場合、県として明確な基準を持って絞り込む必要があるのではないか。
	委員	今年度、まだ要望のない事業もあるが、どのように対応するのか。
	事務局	追加要望調査を行う事業や、対象が絞られる場合は個々に掘り起こしを行うなど、予算が有効に使えるよう対応していきたい。
	委員	逆に予算が足りないといった事業はあるのか。
	事務局	次年度の要望についてヒアリングを行った中で、予算内で執行できるように対応している。園芸関係については、要望が強い。
	委員	薬用作物は農業なのか。また、農福連携については、さまざまな人の職業の選択肢が広がるので、良い取組だと思う。

委員	補助金の直接の目的は、農業所得の向上である。売り上げを目標とするのではなく、所得がどうなったかを評価の対象にすべきではないか。
委員	香川県は県単事業が充実している。有効に活用して欲しい。
委員長	それでは事業評価を終了したいと思います。
事務局	本日は、長時間にわたり熱心にご検討を賜りまして、ありがとうございました。今後、委員の皆様方からの貴重な御意見や御指導などを踏まえまして、事業の効率的かつ適正な執行に努めて参りたいと存じます。本日は誠にありがとうございました。  閉会